

# 環境活動レポート

## 2014年度

ご挨拶

我々人類の文化的営みは、消費の文化と言えます。

この消費の文化から廃棄という行為が生まれ、廃棄がもたらしたものは自然破壊でした。廃棄物による自然破壊が世界各地で表面化し地球規模での環境保全が必要になり、廃棄物の発生抑制・減量化・再資源化促進が図られてはいますが、廃棄物の量は未だに多く、近い将来までは廃棄物の最終的処分を埋立処理に依存せざるを得ないのが現状です。廃棄物最終処分場は、私たちが快適で衛生的な生活を送るためにはなくてはならない施設と言えます。

しかし、生活環境や自然環境に対する人々の意識が高まり、環境と共存し地域住民の理解が得られる環境保全施設としてのより高い信頼性と安全性が廃棄物最終処分場には求められています。

また、現在その処理に困っている廃棄物も将来的には再生資源としての活用も考えられ、廃棄物最終処分場が廃棄物の受入容器から再生資源の備蓄倉庫へ変貌する可能性があります。

私たちは北海道の豊かな自然環境を守りながら、地域の産業活動や経済の発展に欠くことが出来ない廃棄物最終処分場をどのように共存させるかを最大のテーマとして考えてきました。

2015年6月3日

環境エンジニアリング株式会社

代表取締役 高橋 正志

対象期間 2014.4.1 ~ 2015.3.31

発行日 2015.6.3

## 環境エンジニアリング株式会社

〒065-0019 北海道 札幌市 東区 北19条 東1丁目 1番 1号

TEL (011) 741-3670 FAX (011) 741-0671

URL <http://www.kankyou-eng.co.jp>

# 目 次

ページ

会社概要（処理工程図）	3
1. HES:産業廃棄物処理業者システム規格認証登録内容	5
2. 環境改善活動の取り組み体制	5
3. 環境に関する基本方針	6
4. 環境目標と実績	7
5. 環境改善活動の取組結果と次年度取組評価	8
6. 法的及び組織が同意するその他の要求事項	8
7. 2013年度活動の評価と今後の課題	9
8. 最高責任者の評価要約	9

## ■ 会社概要

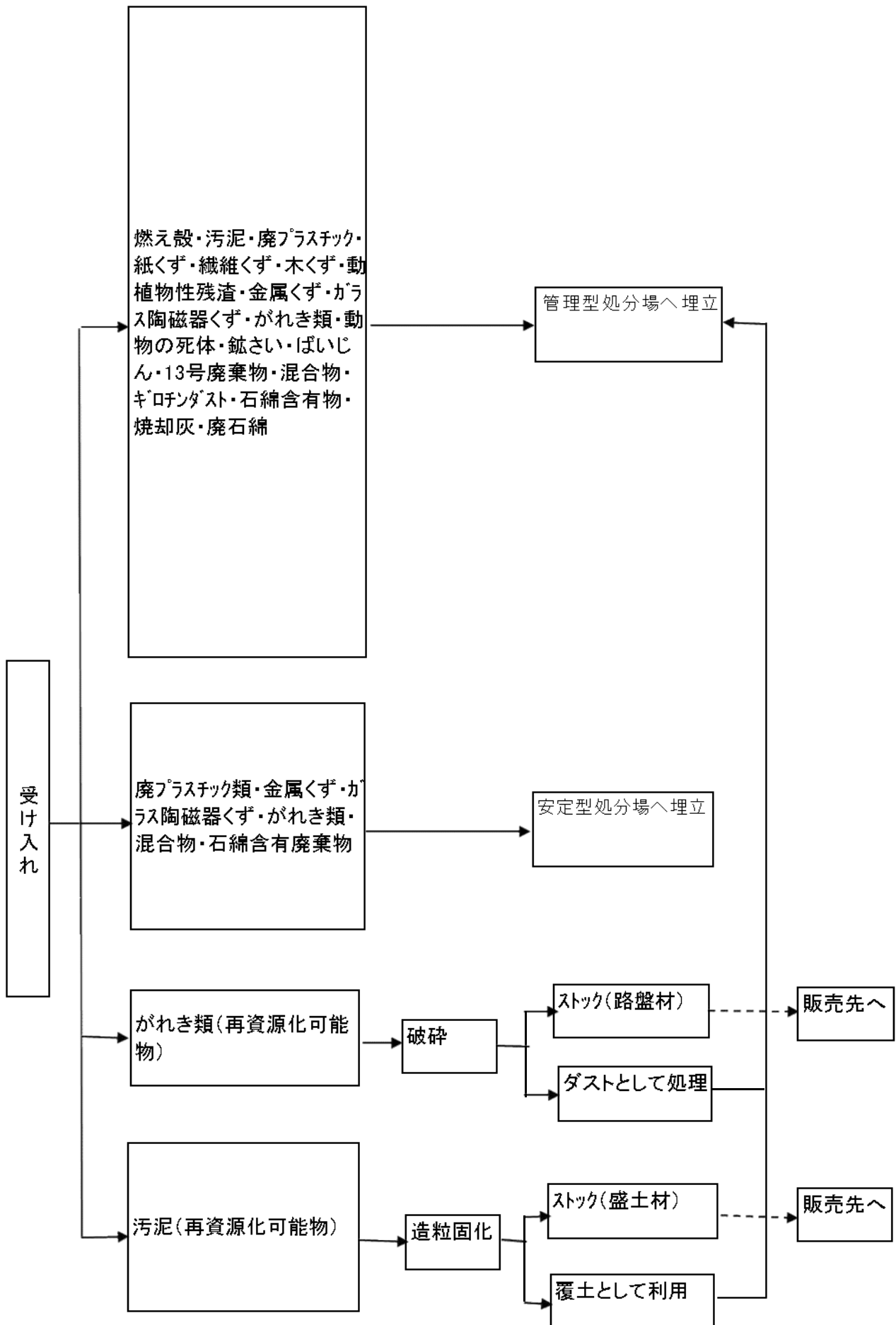
- 会社名 環境エンジニアリング株式会社  
札幌本社 011-741-3670  
〒065-0019 北海道札幌市東区北19条東1丁目1番1号  
美唄支店 0126-64-3033  
〒072-0002 北海道美唄市東1条北9丁目1117番地11  
美唄処分場 0126-65-4688  
〒079-0261 北海道美唄市字サンクワ美唄
- 事業内容 産業廃棄物の処分及びそれに関するサービスの提供
- 資本金 1,000万円
- 売上高 32,000万円
- 従業員数 15名
- 敷地面積 美唄支店 452.63m<sup>2</sup> 処分場 390,387m<sup>2</sup>
- 延床面積 美唄支店 64.59m<sup>2</sup> 処分場 45.87m<sup>2</sup> (計量場、事務所)
- 沿革 1992年10月(平成04年) : 設立  
2006年03月(平成18年) : 産業廃棄物処分業開始  
2014年03月(平成26年) : 優良産廃処理事業者に認定される

### (1)事業規模

#### 処分業

- ・ 処理施設の種類 : 安定型及び管理型最終処分場
- ・ 処理する産廃の種類 : 燃え殻、廃プラスチック、紙くず、木くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、鉋さい、繊維くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、汚泥、ばいじん、処分するために処理したもの。
- ・ 処理能力 : 22,862m<sup>2</sup> 212,040m<sup>3</sup>
- ・ 処理方式 : セル方式
  
- ・ 処理施設の種類 : 安定型最終処分場
- ・ 処理する産廃の種類 : 廃プラスチック、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
- ・ 処理能力 : 13,143m<sup>2</sup> 101,610m<sup>3</sup>
- ・ 処理方式 : サンドイッチ方式
  
- ・ 処理施設の種類 : がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設
- ・ 処理する産廃の種類 : がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず。
- ・ 処理能力 : 456t/日(8時間) 57t/時間
- ・ 処理方式 : 破碎(ジョウクラッシャー) 2次破碎
  
- ・ 処理施設の種類 : がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設
- ・ 処理する産廃の種類 : がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず。
- ・ 処理能力 : 3,200t/日(8時間) 400t/時間
- ・ 処理方式 : 破碎(ジョウクラッシャー)
  
- ・ 処理施設の種類 : 造粒固化施設
- ・ 処理する産廃の種類 : 建設汚泥(無機性汚泥)
- ・ 処理能力 : 60m<sup>3</sup>/h
- ・ 処理方式 : 連続投入方式

処理工程図



## (2)処理実績

処理実績	単位	2012年度	2013年度	2014年度
産業物取扱量(総物質投入量)	t	44,000	34,000	23,000

## (3)廃棄物の処理料金

- ・運搬距離、廃棄物内容、回収形態等により、都度見積を行う。  
基本単価（詳細はHPを参照願います。）

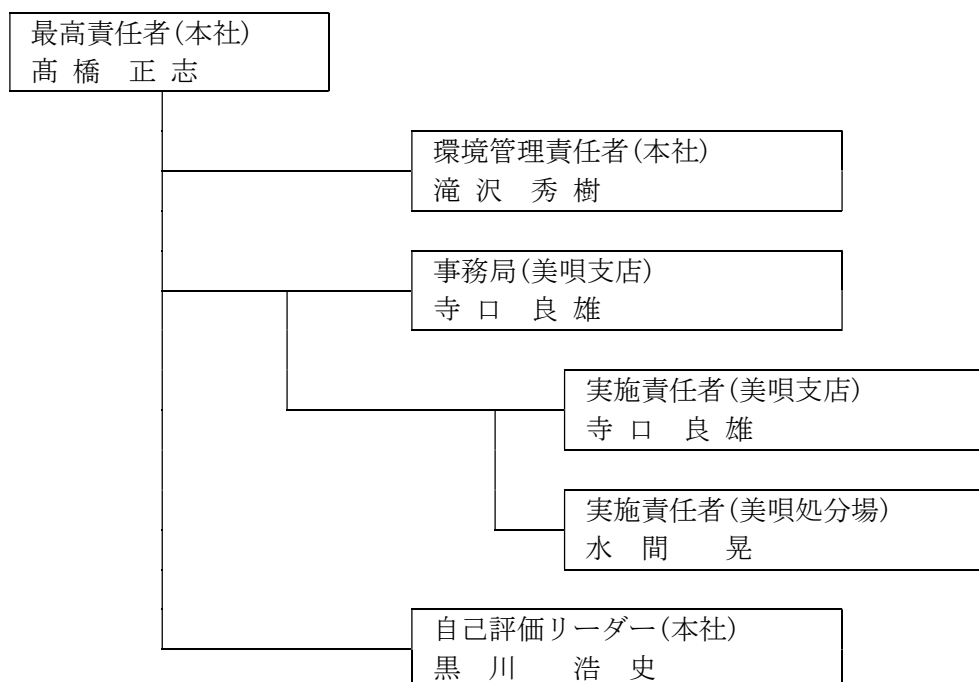
## (4)許認可一覧

許可証	有効期限	自治体名
産業廃棄物処分業許可番号： 許可年月日：平成24年3月12日	第00140125448号 平成30年3月28日	北海道
特別管理産業廃棄物処分業許可番号： 許可年月日：平成23年3月29日	第00180125448号 平成30年3月28日	北海道

## 1. HES：産業廃棄物処理業者システム規格認証登録内容

- 登録日：2008年7月24日認証取得  
第一回更新日：2011年7月21日  
第二回更新日：2014年7月23日
- 登録範囲：産業廃棄物処理業およびリサイクル業
- 登録組織：札幌本社：北海道札幌市東区北19条東1丁目1番1号  
：美唄支店：北海道美唄市東1条北9丁目1117番地11  
：美唄処分場：北海道美唄市字サンクワ美唄

## 2. 環境改善活動の取り組み体制



### 3. 環境に関する基本方針

#### 環境に関する基本方針

##### 〈基本理念〉

環境エンジニアリング株式会社は、事業運営と地球環境の保全を両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組めます。

##### 〈方 針〉

環境エンジニアリング株式会社は、産業廃棄物の収集運搬、処分及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に認識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関連する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。
  - (1) 電気使用量の削減
  - (2) 重機械の燃料使用量の削減
  - (3) コピー用紙使用量の削減
  - (4) 十分な受入処理能力の基に受入廃棄物処理量の増加(リサイクル含む)
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動出来るよう周知徹底するとともに、社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、当社の全従業員をあげて環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

平成 23 年 05 月 01 日 改訂  
環境エンジニアリング株式会社  
代表取締役 高橋 正志

#### 4. 環境目標・環境活動計画と実績

##### 4-1 実績(2012年度～2014年度)

環境目標項目	環境活動計画	実績値 (2012年度)	実績値 (2013年度)	実績値 (2014年度)
二酸化炭素排出量の削減	各環境目標の環境活動計画による	185,306kg-CO <sub>2</sub>	173,411kg-CO <sub>2</sub>	105,103kg-CO <sub>2</sub>
電気使用量の削減	・未使用箇所電源 OFF ・離席時 OA 機器電源 OFF ・空調設備設定温度の調整	264,000kWh	260,070kWh	65,370kWh
重機械の燃料使用量の削減	・空フカシの禁止 ・エンジン出力の適正調整 ・待機時間のエンジン停止	35,100 ㍲	31,096 ㍲	23,161 ㍲
総排水量の削減	・最終処分場からの総排水量の把握	排水量は把握していない	排水量は把握していない	55,800 m <sup>3</sup>
コピー用紙使用量の削減	・裏面未使用部の再利用 ・両面印刷による削減 ・電子メール等の利用	21,200 枚	20,500 枚	18,200 枚
グリーン購入の実施	・カタログによる環境配慮商品の購入	100%実施	100%実施	100%実施
十分な受入処理能力の基に受入量の増加	・積極的な営業 ・環境への配慮事項の PR ・高効率受入品比率の向上	32,700t	29,074t	18,636t

○2012～2013年度は北海道電力の二酸化炭素排出係数(0.353kg-CO<sub>2</sub>/kWh)：2010年度

○2014年度は北海道電力の二酸化炭素排出係数(0.678kg-CO<sub>2</sub>/kWh)：2013年度

##### 4-2 2014年度 環境目標と実績

環境目標項目	環境活動計画	目標値 (2014年度)	実績値 (2014年度)	評価
二酸化炭素排出量の削減	各環境目標の環境活動計画による	173,411kg-CO <sub>2</sub>	105,103kg-CO <sub>2</sub>	A
電気使用量の削減 基準年度維持	・未使用箇所電源 OFF ・離席時 OA 機器電源 OFF ・空調設備設定温度の調整	260,070kWh	65,370kWh	A
重機械の燃料使用量の削減 基準年度維持	・空フカシの禁止 ・エンジン出力の適正調整 ・待機時間のエンジン停止	31,096 ㍲	23,161 ㍲	A
総排水量の削減	・最終処分場からの総排水量の把握	環境目標は設定しない	55,800 m <sup>3</sup>	—
コピー用紙使用量の削減 基準年度維持	・裏面未使用部の再利用 ・両面印刷による削減 ・電子メール等の利用	20,500 枚	18,200 枚	A
グリーン購入の実施	・カタログによる環境配慮商品の購入	100%実施	100%実施	A
十分な受入処理能力の基に受入量の増加 基準年度維持	・積極的な営業 ・環境への配慮事項の PR ・高効率受入品比率の向上	29,074t	18,636t	A

※評価基準 A：達成率90%以上 B：達成率70%以上～90%未満 C：達成率70%未満

○総排水量は事務所では生活利用のみで排水量は少量であり、環境目標の設定はしない。最終処分場からの総排水量は今回より把握したが(55,800 m<sup>3</sup>)、これは雨水量(降雪量)に依存する。

○化学物質は使用していない。

○北海道電力の二酸化炭素排出係数(0.678kg-CO<sub>2</sub>/kWh)：2013年度

#### 4-3 環境目標(中期:2014年度～2016年度)

環境目標	環境活動計画	基準値 (2013年度)	目標値 (2014年度)	目標値 (2015年度)	目標値 (2016年度)
二酸化炭素排出量の削減	各環境目標の環境活動計画による	173,411kg-CO <sub>2</sub>	173,411kg-CO <sub>2</sub>	173,411kg-CO <sub>2</sub>	173,411kg-CO <sub>2</sub>
電気使用量の削減 基準年度維持	・未使用箇所電源 OFF ・離席時 OA 機器電源 OFF ・空調設備設定温度の調整	260,070kWh	260,070kWh	260,070kWh	260,070kWh
重機械の燃料使用量の削減 基準年度維持	・空フカシの禁止 ・エンジン出力の適正調整 ・待機時間のエンジン停止	31,096 ㍉	31,096 ㍉	31,096 ㍉	31,096 ㍉
コピー用紙使用量の削減 基準年度維持	・裏面未使用部の再利用 ・両面印刷による削減 ・電子メール等の利用	20,500 枚	20,500 枚	20,500 枚	20,500 枚
グリーン購入の実施 100%実施	・カタログによる環境配慮商品の購入	100%実施	100%実施	100%実施	100%実施
十分な受入処理能力の基に受入量の増加 基準年度維持	・積極的な営業 ・環境への配慮事項の PR ・高効率受入品比率の向上	29,074t	29,074t	29,074t	29,074t

○総排水量は生活利用での排水量は少量であり、最終処分場からの排水量は雨水量に依存するので環境目標は設定しない。

○化学物質は使用していないので環境目標は設定しない。

○北海道電力の二酸化炭素排出係数(0.678kg-CO<sub>2</sub>/kWh)：2013年度

#### 5. 環境改善活動の取組結果

- 電気使用量の削減については、室内照明やパソコンの電源オフ等を役職員全員が各々の意識として定着したようで、普段の活動として継続している。
- 重機械の燃料使用量の削減については、処分量が減少したこともあるが適正なエンジン出力での作業、作業待機児のアイドルングストップ等、オペレーターの自覚による削減は確実にも行われているものと判断している。
- 事業系コピー用紙の削減については、全体消費量は少ないなかでも、裏面の利用や(社内用)、可能な範囲での両面印刷等、職員への意識は定着しているが、業務量に左右される最少使用量である中、削減活動を続けたことは評価できる。
- 水の使用量の削減については、少量の消費量であるが、飲料水・水洗トイレ等社員全員が節水するようになったものと判断し、今後も維持していく。一方、今年度処理水排水量は 55,800 m<sup>3</sup>。(3 処理施設：60m<sup>3</sup>/日 2 基 45m<sup>3</sup>/日 1 基)と算出している。これは処分場における雨水量(降雪量)に依存するので、排水の水質管理以外には特段の活動はできない。
- 廃棄物の削減については、弁当がら、一般的な事務所からの事業系ゴミでのごく少量であるがゴミ袋の購入管理等からは極端な増加もなく最小限を維持しているものと判断する。
- 燃料・電気料金の高騰や円安で節約効果が消えて非常に残念に思っている。

#### 6. 2013年度活動の評価と次年度取組

- 電気使用量の削減、重機械の燃料使用量の削減、事業系コピー用紙の削減、又、水の使用量の削減及び廃棄物の削減等の達成状況では、目標を達成している。今後の環境目標は基準年を2013年度として再設定し、基準年度の維持管理とし、環境活動計画は次年度以降そのまま継続する。今後の使用量や削減状況を見ながら、目標設定を検討していきたい。
- 受入廃棄物の増加(リサイクル含む)の項目においては、今年度は前年度より減少し基準年には達成することができたことは社員の努力が報われたと思う。次年度以降はますます公共事業が減少し目標達成は難しくなるので一段の努力が必要になるので、環境活動計画は維持していく。



○HES 登録後の活動を通して、役職員全員が環境に対する認識・自覚が向上したものと各種記録や成果から確認できたが、今後も環境改善活動手順書等の再考等も考慮にいて、「環境を守り、産業を支える」ために産業廃棄物の適正処理を目指し、事業活動を推進していきたい。

#### 7. 法的及び当社が同意するその他の要求事項

○当社の事業活動に該当する環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項については、順守状況を定期的に確認し、最終処分場の開設以来は、利害関係者からの指摘、訴訟等は無かった。

#### 8. 最高責任者の評価要約

○HESにより環境への意識づけは高まり良い状態であるが、さらなる削減努力を行う。